

I 今、求められている教育

[学習指導要領 総則より抜粋]

各学校においては、児童の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。

[あいちの教育ビジョン 2025 より抜粋]

児童生徒が、習得・活用・探究の学びの過程の中で、自ら課題を見つけて粘り強く取り組み、仲間と考え合って自らの認識を新たに、知識を関連づけて深く理解したり、情報を精査して考えを形成したりするなど、創造的な活動をする授業を推進します。 言語活動の充実、見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動、体験活動、課題選択及び自主的、自発的な学習の促進、コンピュータ等や教材・教具の活用など、児童生徒の実際の状況を踏まえながら、資質・能力を育成するために多様な学習活動を組み合わせた授業改善を推進します。

II 犬山の教育の現状

子どもの実態（R3 全国学力・学習状況調査より）

- 国語と算数（数学）の平均正答率について全国平均との差に注目すると、算数（数学）よりも国語の方が全国平均との差が見られます。小学校では、「主語と述語、修飾と被修飾の関係を捉える力をつける」ことが必要であり、中学校では、「話し合いの話題や方向性、質問の意図を捉える力をつける」ことが必要であるという結果でした。また、質問紙による結果からは、「将来の夢や目標をもっている」子どもが全国平均と比べて少ないこと、「自分の思いを言葉に表す」ことが苦手で、「将来の夢や目標をもつ」子どもが少ないことが分かりました。これらを受け、犬山市では、授業改善を進め、学ぶ楽しさ、分かる喜びを味わうことのできる子どもの育成を図ることが求められています。

ICT 機器の整備

- ICT 機器の活用によって、子どもたちは、より多くの情報に触れられるようになります。すぐに答えを得られる世界というのは、実に便利です。しかし、生きていく上で私たちに立ちほだかる「問い」は、すぐに答えが得られないものや、答えがないものが多くあります。さらには、何が「問い」なのかさえ、どこにも示されていないのが現実の社会です。先の見えない時代を生きる子どもたちには、「問い」に対してじっくり考える力や、「問い」そのものを自ら見出す力の育成が求められます。それが、読解力です。ICT 活用教育と並行して読解力向上を目指す理由は、そこにあります。

Ⅲ 犬山が捉える読解力

読解力とは何か？

- 読解力は、子どもが何かを学ぶときに発揮される力です。教科を問わず、読解力が発揮されれば、学習効果は高まります。
- なぜなら、学びと言葉は切っても切れない関係だからです。分からなかったことが分かるようになったり、できなかったことができるようになったりする過程（=学びの過程）において、言葉はあらゆる場面で使われています。
- 言葉は、コミュニケーションの道具として使うこともあれば、頭の中で「Aかなあ、Bかなあ」のように自己対話するときにも使います。
- 言葉の意味や働きを正しく理解し、適切に使いこなせるようになれば、コミュニケーションは円滑になり、思考は深まります。そして、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」が育成される学びが実現し、犬山がめざす子ども像「自ら学ぶ力を身につけた感性豊かな子ども」の育成につながります。
- 「読む」に限定しては、めざす子ども像の育成にはつながりません。犬山が捉える読解力は、「読む」「書く」「聞く」「話す」のすべてを包含した「言葉の意味や働きを適用させる力」です。

「言葉の意味や働きを適用させる力」とは？

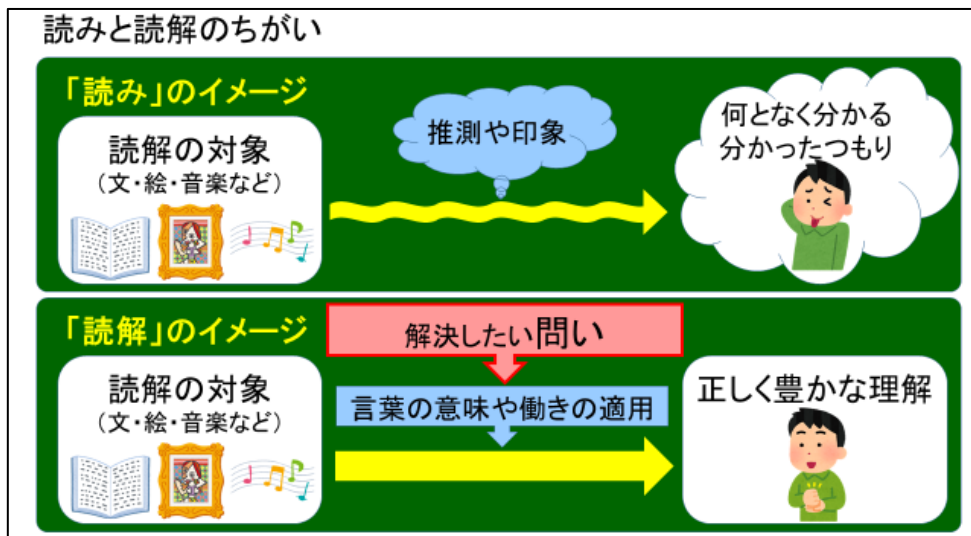
- 言葉の意味と働きを正しく理解し、適切に使い、問題解決に活かす力のことです。
- 言語活動には、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4つの領域があります。犬山では、その一つ一つに「正しさ」と「豊かさ」の側面があると考えます。
 正しく読む／書く／聞く／話す → 言葉の意味や文の構造についての確かな理解
 豊かに読む／書く／聞く／話す → 言葉の奥にある心情の感受や表現

読解力	概要	具体的な力など
正しさ	言葉の意味や文の構造についての確かな理解	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの言葉を知っていて、かつ適切に使うことができる。(語彙力) ・言葉の意味や働きをもとにして、文章の意味や構造を正確に読み取ったり、適切に表現したりすることができる。(文章理解・表現力) ・人の言葉や文章から大切な情報を取り出したり、要点を絞って人に伝えたりすることができる。(要約力)
豊かさ	言葉の奥にある心情の感受や表現	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉に込められた相手(筆者や話者など)の思いを汲み取ることができる。 ・相手にあわせて、相手に伝わる言葉や表現を選択することができる。 ・自己のイメージや認識が変容したことを実感することができる。 ・自己が変容した要因を振り返り、自分や他者がどのように貢献していたかを認識することができる。

- 「正しさ」が向上すれば、情報を正確に受け取ったり伝えたりする能力が向上します。確かな理解や考えの広がり・深まりを促し、知識・技能の習得や、思考力・判断力・表現力等の向上につながります。
- 「豊かさ」が向上すれば、言葉を介して人と心を通い合わせる能力が向上します。他人を尊重する態度や、自己肯定感が育ち、学びに向かう力や人間性等が涵養されます。
- 「正しさ」と「豊かさ」は切り離すことができません。「正しさ」は、「豊かさ」を支える土台です。「正しさ」を身につけることは、「豊かさ」の醸成に欠かせません。

単なる読みと読解はどう違うのか？

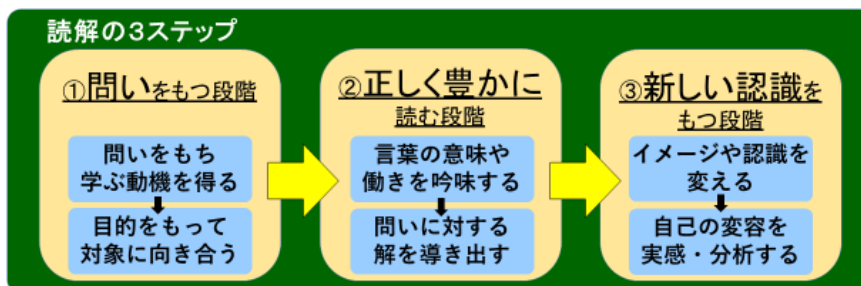
- 「読む」という行為をするとき、子どもは読解力を常に発揮しているわけではありません。読解力を発揮しなくても、読むこと自体はできると言えます。ただしその場合、根拠に裏付けられた確かな読みは薄まり、推測や印象に頼った読みになります。読解力を発揮しない読みでは、理解したつもりに陥ってしまいます。
- 読解力を発揮した学びにするためには、「問い」が必要です。子どもたちにとって解決したい「問い」があって初めて、読解の場面が生まれ、言葉の意味や働きを適用させる必然性が生まれます。犬山市が目指す子ども像も、「自ら学ぶ力を身につけた感性豊かな子ども」となっており、自ら学ぶ（＝問いの解決に向かう）ことの重要性が示されています。



- 「書く」「聞く」「話す」も同様です。特別に意識しなくても、言葉を使って何となく「書く」「聞く」「話す」ことはできてしまいます。しかしそれでは、理解したつもり、伝わったつもりになってしまいます。
- 問いを解決したいという動機があることで、子どもたちは否が応にも言葉というものに向き合おうとします。ここには何が書いてあるのか、相手は何を言おうとしているのか、自分はどうか伝えたらいいのか…。そうする中で読解力が向上していきます。

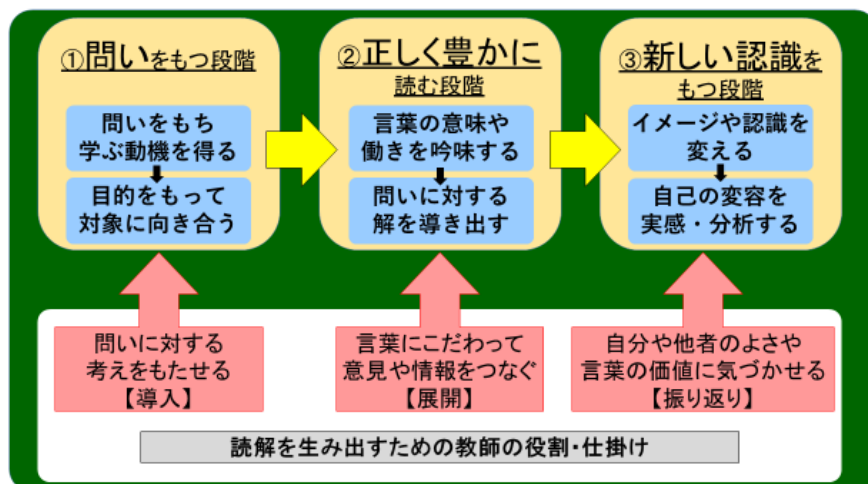
読解の3ステップ

- 以上のことをまとめると、読解は、①問いをもつ段階、②正しく豊かに読む／書く／聞く／話す段階、③新たな認識をもつ段階の3つに整理することができます。



何が変わるのか？

- 授業づくりが大きく変わることはありません。これまで通り、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、各校の現職教育のテーマに沿って取り組んでいきます。
- ただし、3つのポイントがあります。一つ目が「問いをもたせる」ことで、二つ目が「言葉にこだわる」こと、三つ目が「振り返り」です。
- まず、一つ目についてです。教師が問いを与えたり示したりするのではなく、子どもが疑問を抱いたり、「できるようになりたい！」と思ったりして、自ら問いを見出せるように導くことが大切です。主体性を引き出すような導入をすることが求められます。
- 次に二つ目です。教科書の文、教師の発問、子どもの発言などあらゆる言葉について、私たち教師がもっと大切に扱っていかうということです。意識しないと読解が行われなくなるのは、私たちも同じです。子どもたちが見落としてしまいそうな言葉にも目を向けさせ、その意味や働きを確かめさせることで、読解力が向上する学びになります。
- 最後に三つ目です。授業（または単元などのまとまり）の終わりに、自己の変容や言葉の適用について振り返る場面を設定することは、読解力向上（特に豊かさの部分）の視点においても重要だと言えます。



読解力の高まりをどのように確かめたらよいのか？

- 問いをもたせ、言葉にこだわって教育活動を進めても、本当に読解力が向上しているか分からなければ、手応えのない実践で終わってしまいます。読解力を見取る手段が必要です。
- そこで、読解力を見取るための犬山独自の指標を作成します。令和元年度から RST（リーディングスキルテスト）を導入し実践してきましたが、犬山が捉える読解力を見取るには、犬山の捉えに沿った指標が必要となります。独自のテストから得られた情報をもとに、子どもたちの読解力が向上しているのかを分析していきます。

IV 別紙資料

別紙1・・・犬山のめざす子ども像と読解力向上の関係について（図）

別紙2・・・授業と読書活動の相互作用について（図）

「自ら学ぶ力を身につけた感性豊かな子ども」

資質・能力の育成

知識・技能の習得
思考力・判断力・表現力等の向上

学びに向かう力・人間性等の涵養

学びの質の向上

確かな理解
考えの広がり・深まり

仲間を尊重する態度の醸成
自己肯定感の高まり

読解力の向上

正しく読む/書く/聞く/話す力の向上

豊かに読む/書く/聞く/話す力の向上

＊読解を生み出すための教師の役割・仕掛け＊
＊読書活動の充実＊

読解力
アンケート
実施と分析

読解力テスト
実施と分析

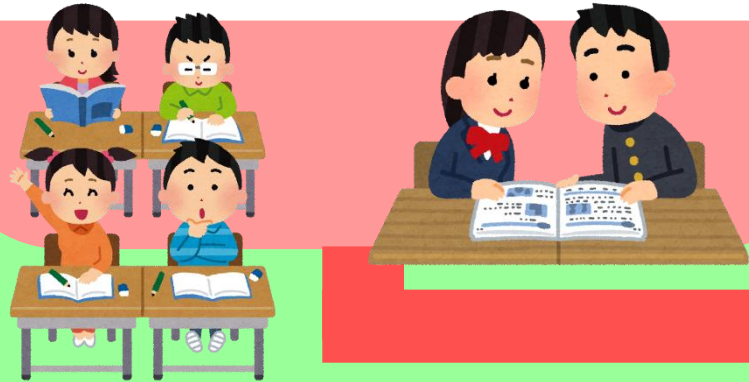
■授業と読書活動が相互に影響し合い、読解力が育くまれる■

授業

読解力向上研究会

正しく読む/書く/聞く/話す力の向上
(言葉の意味や文の構造を正しく理解する)

豊かに読む/書く/聞く/話す力の向上
(言葉の奥にある心情を豊かに感じとる)



○ 読書や調べ学習を通して獲得した語彙や情報が、言葉の正しい理解をより確かにする。

○ 読書によって育まれた情操が、言葉を通して心を通い合わせる営みを支える。

○ 読解を通して課題解決する学習によって、読書活動の楽しさや有用性を実感する。

○ 読解のスキルを習得することで、読書や図書利用の質が高まる。

読書
調べ学習

読書活動推進委員会

本に親しむ心の涵養
(読書活動の楽しさや価値を見出す)

読書や図書利用の深化
(本を通して情操を育む、見識を広げる)

